

- 問1 東大寺の正倉院には、聖武天皇ゆかりの品々のほか、西アジアやインドを起源とする文様が施された楽器や宝物が数多く納められています。このように、当時の日本に国際色豊かな文化がもたらされた背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 岩手県公立入試 類似)
1. 遣唐使によって、大陸の広大な交易網を通じて集まった品々や文化が流入したため
 2. 平清盛が日宋貿易を推進し、宋の貨幣や香料とともに異国の文化が伝わったため
 3. 遣隋使によって、聖徳太子が大陸の進んだ仏教工芸品を大量に輸入したため
 4. 足利義満が勘合貿易を行い、明から禅宗の影響を受けた宝物を持ち帰ったため
- 問2 7世紀後半、日本（倭）が白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北した後、大陸からの侵攻を警戒して九州北部の防衛を強化するために配置された兵士を何と呼びますか。 (2019年 茨城県公立入試 類似)
1. 屯田兵
 2. 健児
 3. 防人
 4. 足軽
- 問3 万葉集の編纂に深く関わったとされる人物は誰ですか。この人物自身の歌も多く収録されており、また和歌集全体としては、柿本人麻呂が現在の香川県坂出市に立ち寄って詠んだ歌など、全国各地を舞台とした作品が収められています。 (2020年 鳥取県公立入試 類似)
1. 大伴家持
 2. 藤原定家
 3. 山上憶良
 4. 紀貫之
- 問4 聖武天皇が「鎮護国家」の思想を実現するために全国で実施した、具体的な政策の内容として正しいものはどれですか。 (2017年 山形県公立入試 類似)
1. 唐から鑑真を招き、すべての村々に仏教を布教するための道場を整備した
 2. 国ごとに国分寺・国分尼寺を建立し、都には大仏を本尊とする東大寺を建てた
 3. 有力な貴族に命じて一族のための氏寺を建立させ、私的な祈禱を奨励した
 4. 郡ごとに一つずつ寺院と役所を一体化した施設を建て、戸籍の管理を行わせた
- 問5 奈良時代の律令制度において、男性の農民に課せられた負担のうち、都での労働（歳役）の代わりに、都へ布を納める義務を何と呼びますか。 (2016年 福岡県公立入試 類似)
1. 庸
 2. 兵役
 3. 租
 4. 調
- 問6 奈良時代の聖武天皇が進めた寺院建立の仕組みについて、都と地方の関係性を正しく説明しているものはどれですか。 (2021年 広島県公立入試 類似)
1. 都に建立された東大寺を総本山とし、全国の各地方に配置された国分寺・国分尼寺をネットワーク化した。
 2. 遣隋使や遣唐使として派遣された僧侶たちが、帰国後に自らの出身地に独自の国分寺を建立した。
 3. 各地の有力な豪族が私的に建てた寺院を、聖武天皇がすべて国分寺として公認する制度を整えた。
 4. 地方の国ごとに守護を配置し、その守護が中心となって都の東大寺を上回る規模の寺院を各地に建てた。
- 問7 正倉院に伝わる「鳥毛立女屏風」には樹木の下で唐風の衣装をまとった女性が描かれています。このような国際色豊かな文化が栄えた時代において、その時代（天平文化）の特徴を正しく説明している仏教彫刻はどれですか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
1. 国家を守るという目的のために、力強く写実的な技法で造られた天平様式の仏像
 2. 平安時代に藤原氏の権力を背景として、平等院鳳凰堂に安置された定朝作の阿弥陀如来像
 3. 京都の仏隆寺に安置されている、飛鳥時代の渡来人による技術の影響が見られる弥勒菩薩像
 4. 飛鳥地方を中心に建立された寺院に見られる、北魏様式などの特徴を持つ日本最古の仏像
- 問8 奈良時代の班田収授法における、口分田の配分や管理の仕組みについて述べた文として、正しいものはどれですか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
1. 口分田は一度与えられると、本人が死亡した後も子孫が代々受け継いで耕作することができた。
 2. 税の負担を公平にするため、身分に関わらずすべての国民に全く同じ面積の土地が与えられた。
 3. 土地の不足を解消するため、新しく開墾した土地であれば、返還せずに永久に私有することが認められた。
 4. 戸籍に登録された6歳以上の男女すべてに与えられ、その面積は性別や身分によって違いがあった。
- 問9 奈良時代に、中国の王朝にならって貨幣が鑄造された背景や、当時の経済状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2017年 三重県公立入試 類似)
1. 律令国家としての体制を整えるため、唐の制度を参考に貨幣を鑄造し、平城京に市を設けて流通を図った。
 2. 武家政権の経済基盤を固めるため、唐から伝わった技術を用いて、金・銀・銭の三貨制度を平城京で確立した。
 3. 宋との貿易を拡大させるため、平城京の市で使う共通通貨として、大量の銅銭を中国から輸入した。
 4. 日本独自の商業文化を発展させるため、平城京で楽市・楽座を行い、唐の貨幣を禁止して国産貨幣を流通させた。
- 問10 奈良時代、聖武天皇の時代を中心に栄えた天平文化の特徴を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 沖縄県公立入試 類似)
1. 遣唐使によってもたらされた唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色を持っている。
 2. 幕府の保護を受けた禅宗の影響により、簡素で気品のある東山文化が栄えた。
 3. 国風文化が発達し、仮名文字を用いた文学や、日本的な風景を描く大和絵が生まれた。
 4. 武士の気風を反映した力強い文化で、運慶による写実的な彫刻が制作された。
- 問11 710年に現在の奈良市にあたる場所に造営され、唐の都である長安をモデルとして碁盤の目状に区画された都の名称を選びなさい。 (2017年 北海道公立入試 類似)
1. 長岡京
 2. 平城京
 3. 藤原京
 4. 平安京
- 問12 当時の土地制度の変遷を記した記録において、口分田の不足を背景として墾田永年私財法が制定された目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)
1. 全国の土地の広さと収穫量を調査し、耕作者を確定させることで年貢を確実に徴収する仕組みを整えるため。
 2. 土地の私有を禁じる公地公民の原則をさらに強化し、すべての土地を再び天皇のものに統合し直すため。
 3. 自力で開墾した土地の永代私有を認めることで、農民や貴族に土地を広げる意欲を持たせ、耕地を増やすため。
 4. 三代にわたって開墾地の使用を認めていた従来の制限を撤廃し、土地をすべて国に返還させるため。
- 問13 大化の改新以降の律令国家において、班田収授法により与えられた口分田の面積に応じて課された税のうち、収穫した稲の約3パーセントを納めることとされたものを何と呼びますか。 (2021年 山口県公立入試 類似)
1. 調
 2. 雑徭
 3. 庸
 4. 租
- 問14 古代の律令国家において、安定した税収を確保するために「班田収授法」が実施されました。この制度において、6歳以上の男女に与えられた「口分田」での収穫量に対し、約3パーセントを納める義務があった税の名称を選びなさい。 (2022年 滋賀県公立入試 類似)
1. 調
 2. 租
 3. 庸
 4. 雑徭

答え合わせ・解説

問1	答え 1 遣唐使によって、大陸の広大な交易網を通じて集まった品々や文化が流入したため	正倉院の宝庫に納められた国際的な宝物は、当時の中国の王朝である唐との交流、すなわち遣唐使の派遣によってもたらされました。当時の唐はシルクロードを通じた東西交流の拠点であったため、日本にもペルシア（現在のイラン付近）やインドなどの文化が、唐を経由して流入しました。聖武天皇は、仏教の力で国を治める「鎮護国家」の思想のもと、こうした大陸の制度や文化を積極的に取り入れ、国家の安定を図りました。
問2	答え 3 防人	663年の白村江の戦いで敗れた倭は、唐や新羅による報復や日本への侵攻を恐れ、大宰府などがある九州北部の沿岸部を防衛する必要に迫られました。そのため、水城や大野城を築くとともに、沿岸を警備する「防人」を配置して国防を強化しました。
問3	答え 1 大伴家持	万葉集は長い年月をかけて歌が収集されましたが、最終的なまとめ役として大伴家持が重要な役割を果たしたと考えられています。柿本人麻呂などの宮廷歌人から地方の歌まで幅広く収録されている点が、後の時代の天皇の命令によって編纂された「勅撰和歌集」とは異なる大きな特色です。選択肢の紀貫之は平安時代の『古今和歌集』、藤原定家は鎌倉時代の『新古今和歌集』の編纂者として知られています。
問4	答え 2 国ごとに国分寺・国分尼寺を建立し、都には大仏を本尊とする東大寺を建てた	聖武天皇は741年に「国分寺建立の詔」を出し、地方の各「国」に国分寺・国分尼寺を整備させました。また、743年には「大仏造立の詔」を出し、仏教による国家鎮護の中心的な拠点として、都に東大寺と巨大な大仏を造営しました。これらは地方の役所としての機能を持つものではなく、あくまで宗教的な力で国家を安泰に導くための施設でした。
問5	答え 1 庸	「庸」は、年間10日間の都での労働（歳役）の代わりとして、布（庸布）を納める税のことです。これに対し、収穫した米を納めるのが「租」、各地の特産物を納めるのが「調」です。調や庸は、農民が自ら都まで運ぶ必要があり、その道中の食糧も自己負担であったため、農民にとって非常に過酷な負担となっていました。また、これらとは別に、防人や軍団として仕える「兵役」の義務もありました。
問6	答え 1 都に建立された東大寺を総本山とし、全国の各地方に配置された国分寺・国分尼寺をネットワーク化した。	聖武天皇は中央集権的な国家体制を強化するため、宗教面でも都を頂点とする組織作りを行いました。都の東大寺を中心（総本山）とし、地方の各国に配置された国分寺・国分尼寺がそれに連なる仕組みを整えることで、仏教を通じた国家の統一と安定を図りました。これは、当時の律令国家としての地方統治の仕組みとも深く関わっています。
問7	答え 1 国家を守るという目的のために、力強く写実的な技法で造られた天平様式の仏像	奈良時代の天平文化は、唐の文化や仏教の影響を強く受けた国際色豊かな文化です。この時代の仏像は、鎮護国家の思想に基づき、国家の安泰を願って造られました。広隆寺の弥勒菩薩や飛鳥地方の仏像はそれ以前の飛鳥時代の文化、平等院の阿弥陀如来像は後の平安時代（国風文化）の仏像であり、制作された背景や目的が異なります。
問8	答え 4 戸籍に登録された6歳以上の男女すべてに与えられ、その面積は性別や身分によって違いがあった。	口分田は6歳以上の男女に与えられましたが、例えば良民の男性は女性の1.5倍の面積を受け取るなど、性別や社会的な地位によって配分される広さが異なっていました。開墾した土地の私有化は、のちの「三世一身の法」や「墾田永年私財法」によって認められるようになりますが、口分田そのものは原則として一代限りの貸与であり、死後は国に返す必要がありました。
問9	答え 1 律令国家としての体制を整えるため、唐の制度を参考に貨幣を鑄造し、平城京に市を設けて流通を図った。	当時の政府は、唐の律令制にならって中央集権的な国家づくりを進めていました。貨幣の鑄造はその一環であり、国家の威信を示すとともに、平城京内の東の市・西の市などで貨幣を使わせることで、国家が経済活動を管理・把握する狙いがありました。
問10	答え 1 遣唐使によってもたらされた唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色を持っている。	天平文化は、当時の中国である唐との活発な交流により、その先進的な文化や制度を積極的に取り入れました。唐にはさらに西方の文化も流入していたため、日本の天平文化も西アジアやインドなどの影響を含んだ国際色豊かなものとなりました。
問11	答え 2 平城京	元明天皇の時代に唐の長安にならって建設された都で、ここを中心に律令国家の政治が行われた。
問12	答え 3 自力で開墾した土地の永代私有を認めることで、農民や貴族に土地を広げる意欲を持たせ、耕地を増やすため。	律令制のもとでは「班田収授法」によって土地が配分されていましたが、人口増加による土地不足が深刻化しました。723年の「三世一身の法」では三代までの期限付きで私有を認めましたが、期限が近づくとも土地が荒廃する問題が起きたため、743年のこの法で永代私有を認め、継続的な開墾を促しました。これが貴族や寺社による大規模な土地所有（初期荘園）を招く原因となりました。
問13	答え 4 租	律令制度における税制の基本は、戸籍に基づいて人々に口分田を貸し与える代わりに、税を徴収する仕組みでした。このうち、収穫した稲の一部を納めるものは「租」と呼ばれます。租として納められた稲は、地方の役所である国衙（こくが）などの倉庫に蓄えられ、主に地方政治の財源として利用されました。
問14	答え 2 租	律令制度下の税制において、土地の面積に応じて課せられた税が「租」です。農民は国から与えられた口分田の収穫から一定割合の稲を納め、これらは地方の財源として保管されました。これに対し、都での労働の代わりに布を納める「庸」や、地方の特産物を納める「調」は、土地ではなく人身（正丁など）に対して課された税です。